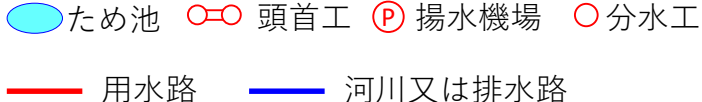


地域の概要

- 1

【内 容】

- 地区・工区の構成
- 農業水利システム：船岡地区①：船岡第 1 工区
- 農業水利システム：船岡地区①：船岡第 2 工区
・宗谷堰の歴史
- 農業水利システム：船岡地区③：船岡第 3 工区
- 農業水利システム：淀川地区①：日暮・白岩・山谷・中村工区
・白岩工区の用水系統
- 農業水利システム：淀川地区②：川原・西ノ沢・馬場・逢田工区
- 農業水利システム：小種地区
・小種地区：福部羅揚水機の用水系統
- 施設の維持保全
- ほ場整備

作 成	秋田県 農業農村整備等技術検討委員会 秋田県仙北地域振興局農村整備課
協 力	・ 秋田県協和土地改良区 ・ 大仙市 ・ 秋田県土地改良事業団体連合会
作成経緯	ver. 1.0 令和 7 年 3 月
基本凡例	 ※ 資料作成の都合上、必ずしもこれらのとおりの表記となっていない場合がある
出 典	・ 秋田県水土里情報システムのレイヤを使用したものは次のとおり - 地形図：「測量法に基づく国土地理院長承認（使用） R6JHs 74-GISMAP59536号」 - 航空写真：「© NTT InfraNet, JAXA」 - 衛星写真：「© NTT InfraNet, Maxar Technologies.」 ・ その他土地改良区提供資料など
備 考	本資料は、秋田県の農業を支える基盤であり、地域資源でもある農業水利施設について、土地改良区毎にその構成、歴史、維持管理等の概略を示し、土地改良区の組合員のみならず地域住民の皆様に対し広く周知するものです。 これにより、各地域の農業水利施設を保全管理することの重要性について理解を深めていただき、農業水利施設の持続的な機能発揮と秋田県の農業の発展の一助となることを目指しています。 本資料については、現地調査に加え、水土里情報システム内の資料、過去に実施した事業の資料、土地改良区からの提供資料、土地改良区からの聞き取りなどをベースに作成していることから、時点が古い情報や現状と比較し正確ではない情報が含まれていることがあります。このため、本資料を閲覧される方に置かれましては、このことを予め御了知いただくとともに、本資料を利用すること等により生じるトラブルや損害等については、秋田県ではその責任を負いかねますので、予め了承ください。

地区・工区の構成 大きく3地区、これらを構成する11工区から構成される。

- 淀川の上流域から船岡地区、淀川地区、小種地区に大きく分けられる。
- 各地区には複数（小種地区は単数）の工区が含まれる。

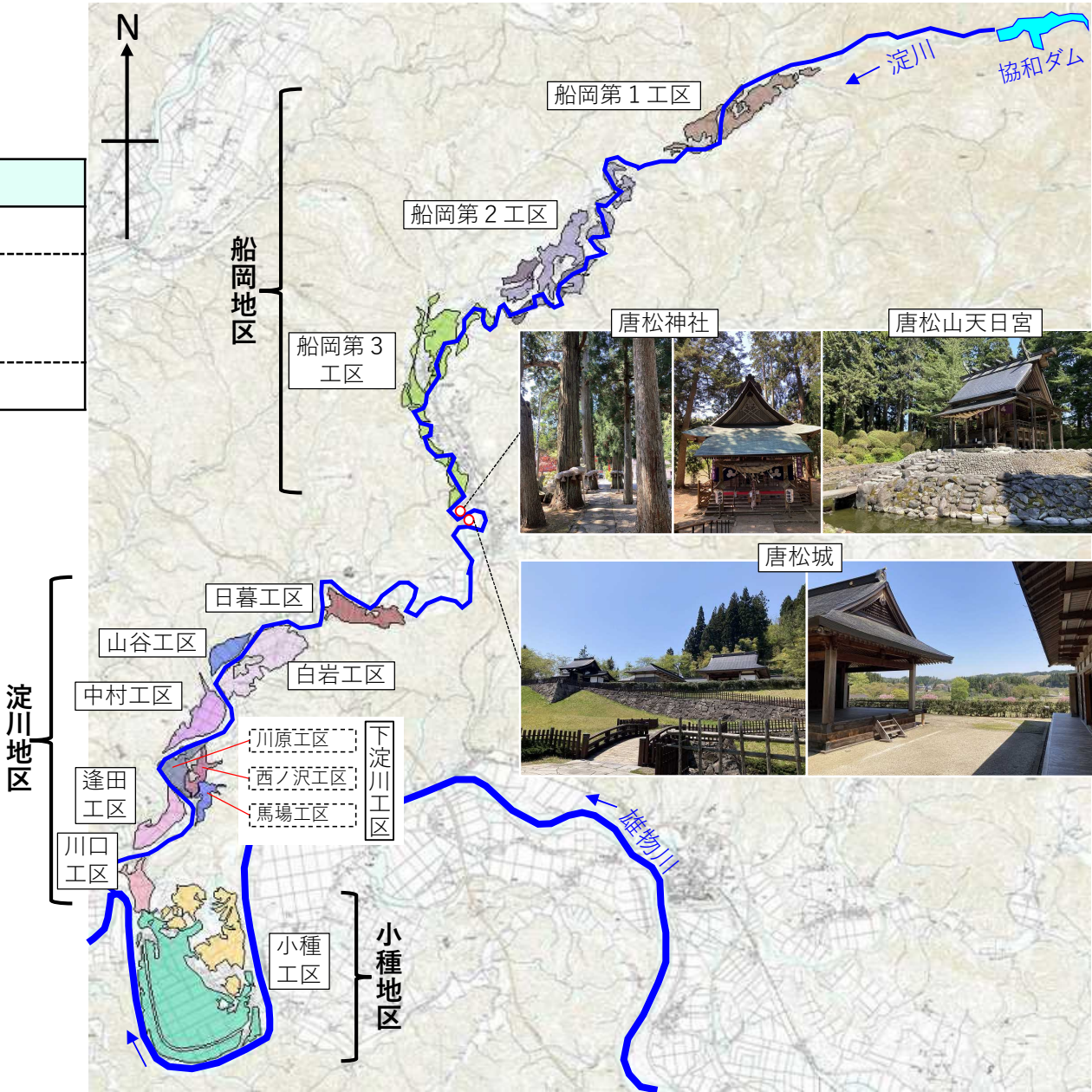
地区名	工区名
船岡地区	船岡第1工区、船岡第2工区、船岡第3工区
淀川地区	日暮工区、白岩工区、山谷工区、中村工区、下淀川工区（川原工区＋西ノ沢工区＋馬場工区）逢田工区、川口工区
小種地区	小種工区

協和ダムの概要

- 秋田県営事業により平成10年度より供用開始した多目的ダム（治水・不特定かんがい・上水道等）。
- 秋田県仙北地域振興局が管理。

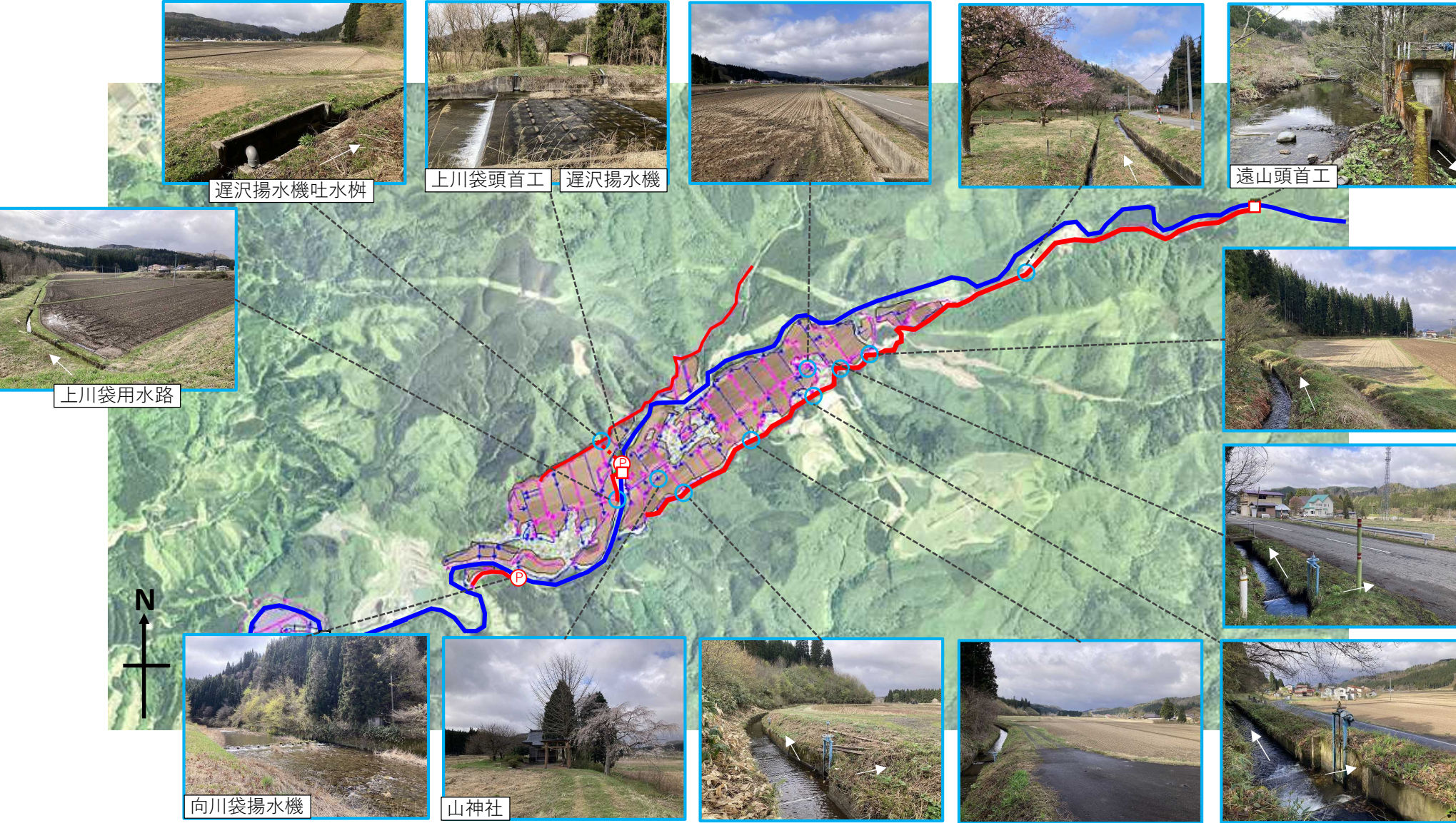


ダム		貯水池	
形式	重力式コンクリート	集水面積	24.4km ²
堤高	49.3m	総貯水容量	780万m ³
堤頂長	222.5m	有効貯水容量	705万m ³
堤体積	16.89万m ³	うち洪水調節容量	550万m ³
堤長標高	EL.239.3m	うち利水容量	155万m ³



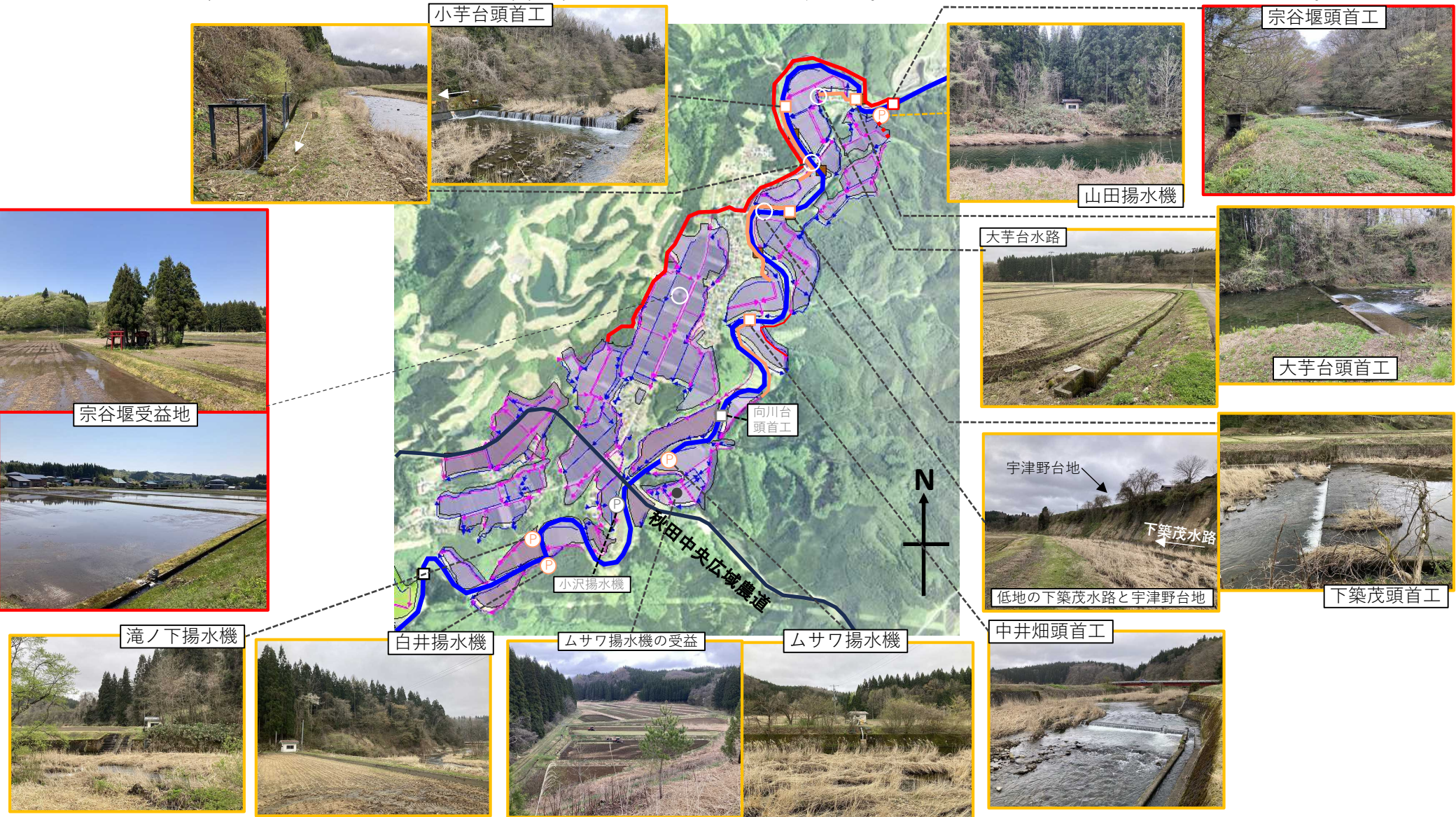
農業水利システム 船岡地区①：船岡第1工区 遠山頭首工を中心とした開水路システム

- 協和ダム下流の遠山頭首工から取水し、地区の大部分を開水路による供給主導型システムによりかんがい。
- 上川袋頭首工・遅沢揚水機は同一箇所から取水。遅沢揚水機は山側の受益に対する沢水の補水の役割。



農業水利システム 船岡地区②：船岡第2工区 高台に送水する宗谷堰、川沿いの低地を受益とする頭首工・ポンプ群

- 淀川沿いに比して標高が高い宇津野の台地部分には、上流に設置した宗谷堰頭首工から山腹を経由して開水路により送水。
- 淀川沿いの左右岸に点在する受益地には個々の固定堰や揚水機場から取水し、送水。いずれも供給主導型システムとなっている。



宗谷堰改修竣工記念碑

宗谷堰沿革
寛文3年（江戸時代初期）佐竹藩士梅津利忠氏が開田し堰堤用水路を構築
明治43年 船岡村8代目村長鎌田七太郎氏が宗谷堰水利組合を設立し大正2年知事の認可を得る
大正13年 用水路拡幅以後昭和23年同32年施工
昭和22年 大洪水で堰堤用水路流失 同23年総工費120万円で復旧
昭和40年 竪をコンクリートに改修
昭和49年 県営圃場整備事業の為船岡土地改良区に合併し新たに任意組合として再発足
昭和49年 大雪の融雪災害の為堰堤崩壊 同50年総工費240万円で復旧
昭和55年～同58年 用水路改修を土砂崩壊防止事業で総延長917mを総工費4650万円でここに完工した
昭和59年6月12日建立



県営ため池等整備事業 宗谷堰地区 竣工記念碑

沿革
宗谷堰用水路は、寛文から元禄（一六六三～一六九〇年）に佐竹藩家老梅津主馬利忠氏が、宇津野、野田、中野の原野を開田するため、宗谷峡入口を堰き止め琴ヶ沢から宇津野の山腹に水路を構築する。
現在までの主な改修は、昭和二二年の豪雨により木工沈床堰が流失し昭和二三年災害復旧事業（事業費一二〇万円）によりコンクリート固定堰に築堤、昭和四九年融雪により堰堤前部が決壊し昭和五〇年災害復旧事業（事業費二四〇万円）で復旧、昭和五五年～昭和五八年に掛樋下流九一七メートルを町営土砂崩壊防止事業（事業費四六五〇万円）で整備、平成一三年から県営ため池等整備事業により頭首工から未整備部分及び隧道内部の整備を行い、佐竹藩家老梅津主馬利忠氏が山腹に構築した宗谷堰用水路全線が近代的施設に生まれ変わる。

事業名 宗谷堰地区県営ため池等整備事業（用排水施設整備）
事業量 用水路工 延長七三八メートル
水路トンネル 延長一五三メートル
取水ゲート 一式
事業費二一一百万円
負担割合 国五〇％ 県三三％ 市一〇％ 地元七％
事業期間 平成一三年度～平成一八年度
受益面積 七六．八ヘクタール
事業関係者 大仙市協和土地改良区 宗谷堰水利組合



梅津利忠記念碑（1637～1690）

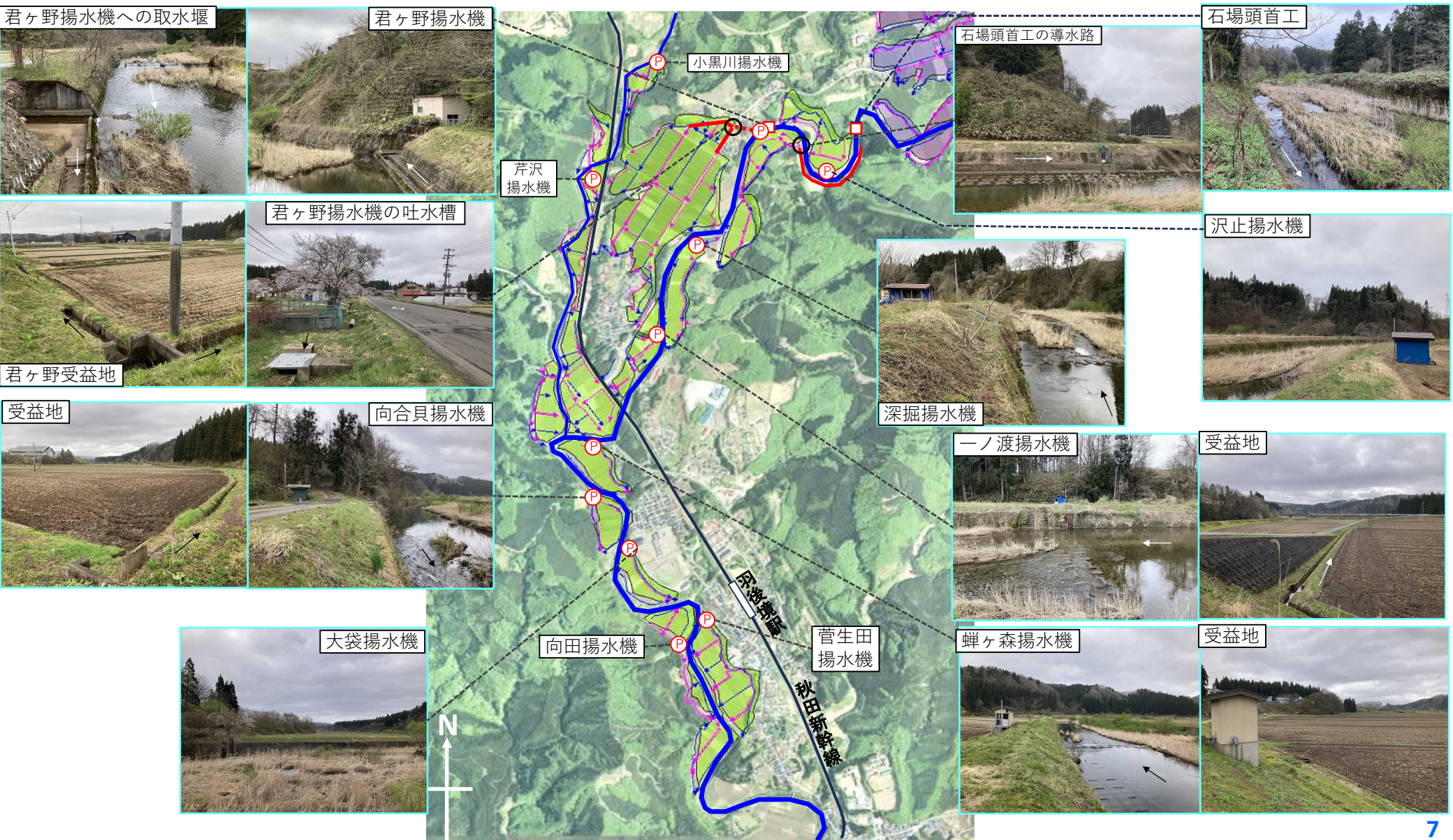
沿革
近世の船岡は、川沿いに人が住み稲作が開始。伝説の船王神社は古い時代から鎮座。1584年に曹洞宗徳昌寺が改山。1596年に豊島城落城から遁れた豊島勘三郎重照は、宇津野に定着し開祖となった。1602年常陸の佐竹義宣は国替え秋田入り。家臣梅津家は人材豊富、4代目利忠は雄物川改修、豊島堰構築、仁井田の開田に尽力。病気のため引退。1671年梅津の領地宇津野山（御学館山）に山荘吟風亭を開き妻と移住。利忠は和歌の達人、多くは船岡を詠む。当時の船岡台地は、水源乏しく水田は極少。利忠は宗谷堰水路工事を指導。宇津野、野田、中野の開田に成功。家来治兵衛家の三四郎を君ヶ野開発に派遣。三四郎は、先住の文右衛門、牛島の小野氏の資金協力、盛岡から移住した柳原善治家らと共に開田に成功。川沿いから台地に集落が増え、台地は106haの美田に転換、船岡発展の基となった。
利忠の病は重く、元禄3年春、山荘で53才の生涯を終え、遺骨は秋田市桜梅津家墓地に埋葬。菩提寺は金照町に曹洞宗萬雄寺がある。利忠死後320年に当たり、大仙市の支援を受け、山荘跡の公開はロイヤルセンチュリーゴルフクラブのご好意により実現、記念事業が完結した。協賛を戴いた関係者各位、梅津の指導を戴いた武田憲雄氏に篤い感謝を申し上げます。
平成22年（2010）11月28日竣工
梅津利忠を語る会 会長 豊島不二夫

ほととぎす きくぞうれしき ここをそと 思ひし山の かひに鳴音を （船沢にて）
ほととぎす なにたづねけむ 鳥の音も きこえぬ山の おくになるまで （庄内にて）
萌残る 峰のわらびを 別にし きのふの春の かたみにぞ折 （禅京山にて）
せき入ぬ 水もあせこす さみだれに 門田のさなえ とるのうれしき （新田の苗取）
黒染の 袖につつまば 夏虫の 影や衣の 玉と見ゆらん （徳昌寺にて）
もじみ葉の ちらでうつれる 影や先 ながれもやらぬ 水のしがらみ （川台にて）
山里は ちる紅葉に 埋もれて うきよに帰る 道も絶えにき （山荘の秋）
うつの山 うつつに残る 薦の種 とりし夢に なりはつとも （宇津野の思い出）
ながらへて したふも悲し たらちねの 撫し黒髪 霜になるまで （父忠国を偲び）
若菜摘 きのふの野辺に けふもきて 同じ雪間の 小松をぞひく （最後の歌）
（※括弧書きは石碑傍の解説より）



農業水利システム 船岡地区③：船岡第3工区 君ヶ野の台地を潤す

- 君ヶ野揚水機場は、固定堰⇒導水路⇒揚水機場⇒台地状の受益地に用水供給。揚水後は開水路のため、供給主導型システム。
- 他の淀川左右岸沿線の受益に対しては、小規模な揚水機場により、開水路に注水する供給主導型システム。

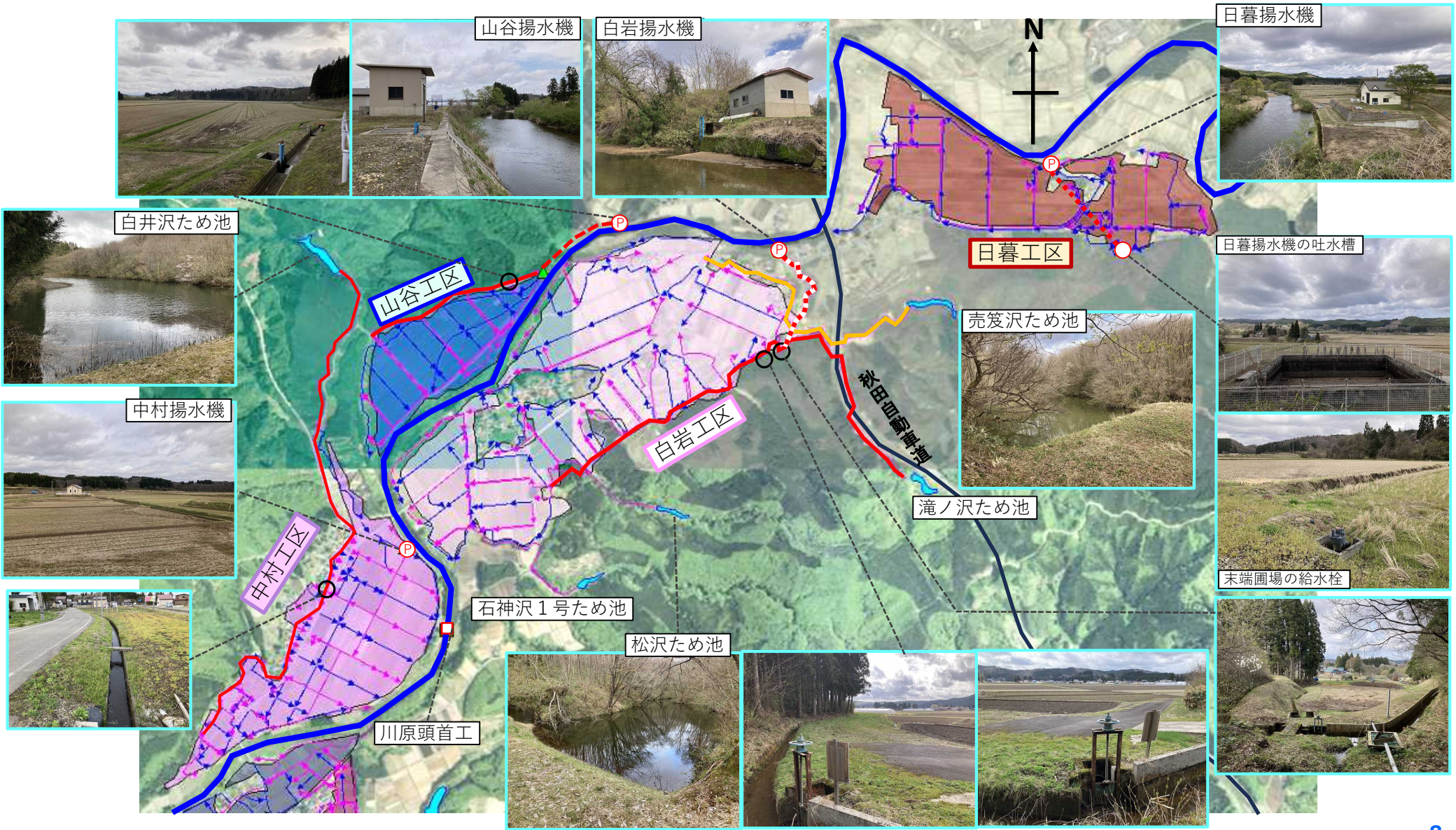


農業水利システム

淀川地区①：日暮・白岩・山谷・中村工区

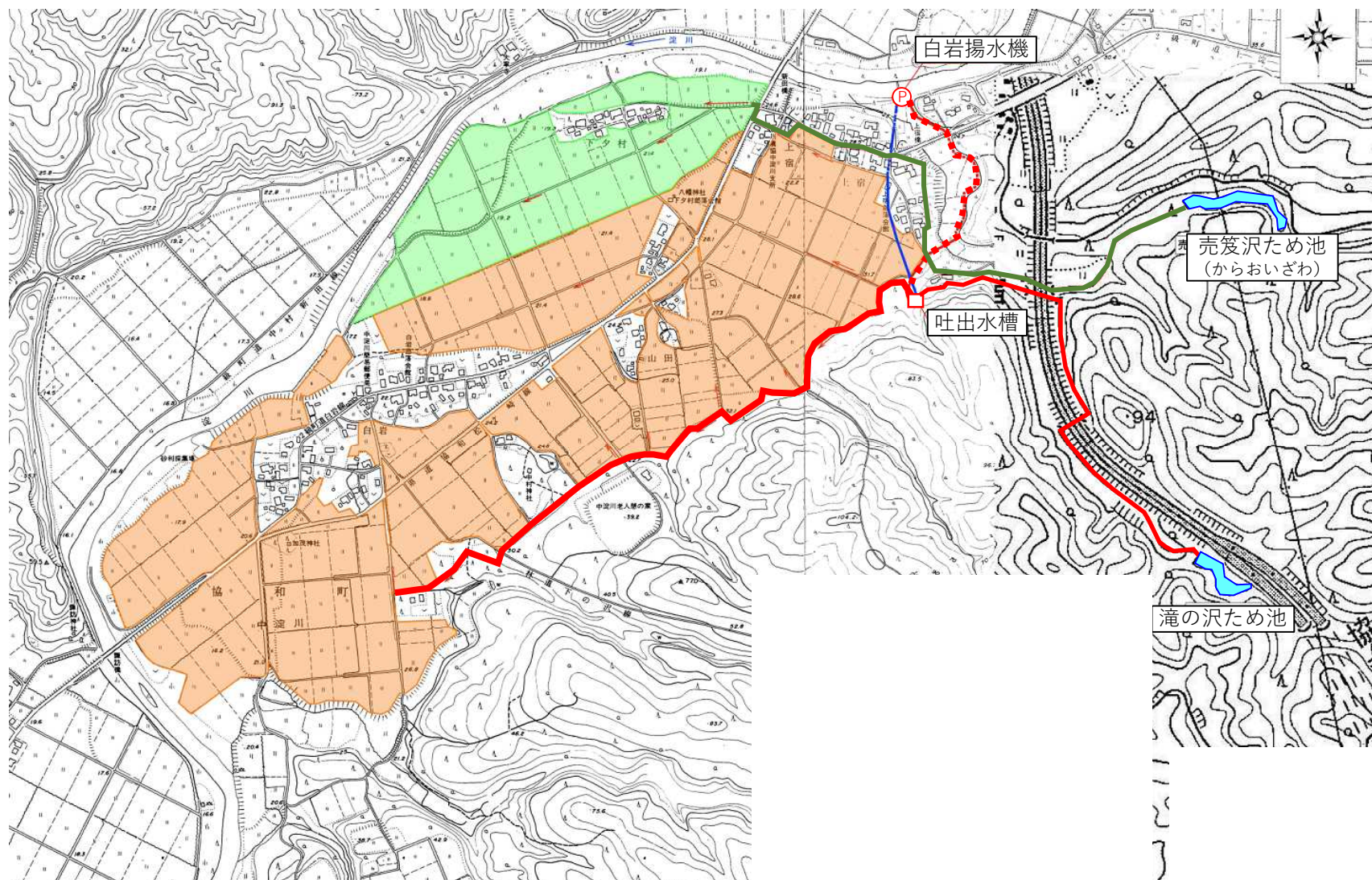
揚水機場を主体とした用水供給

- 日暮工区は揚水機場から吐水槽に揚水後は末端までパイプラインフル装備の完全需要主導型システム。
- 白岩・山谷・中村工区は揚水機場から開水路に揚水。この他、白岩・中村工区ではため池による補給水も利用可能。

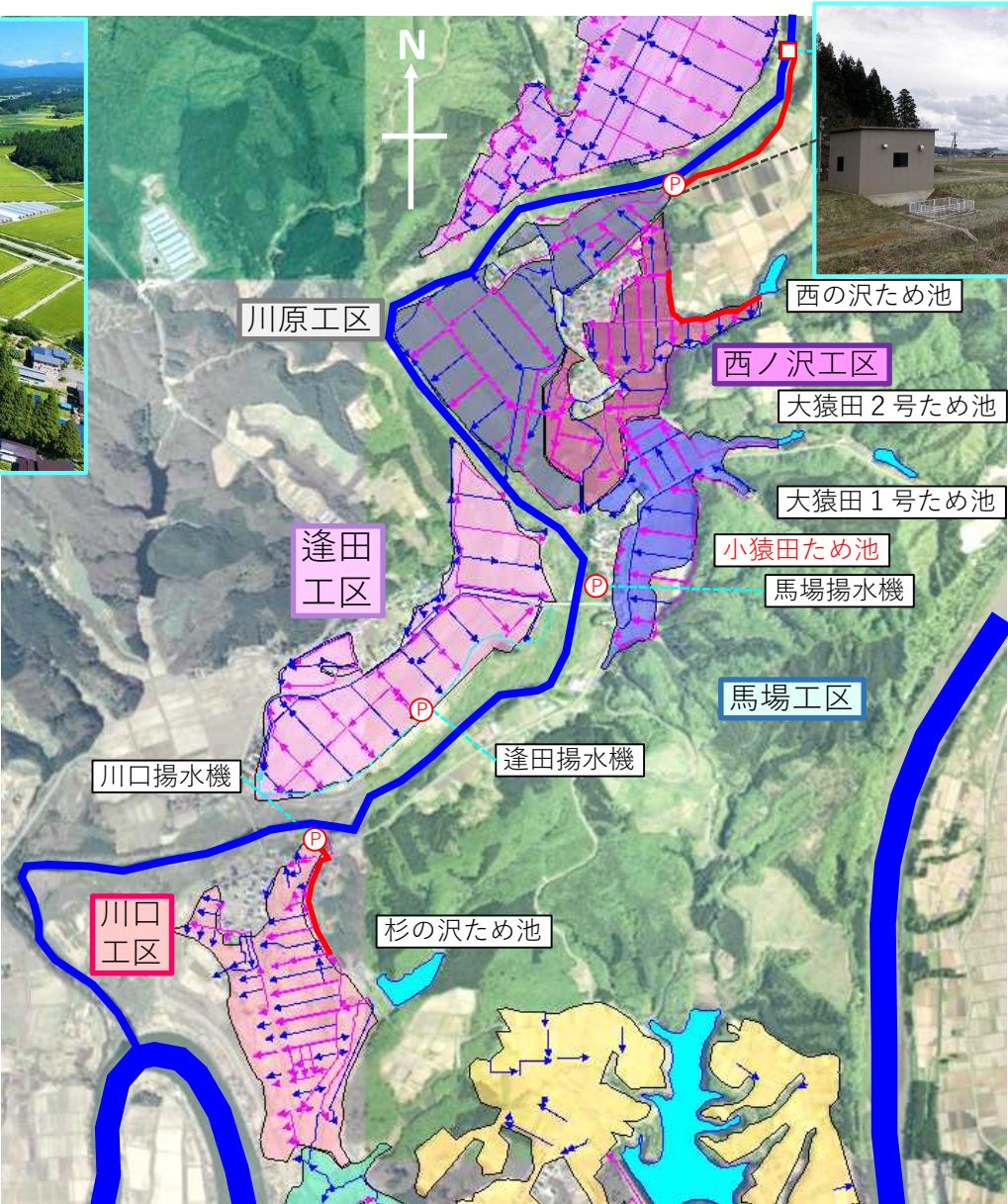


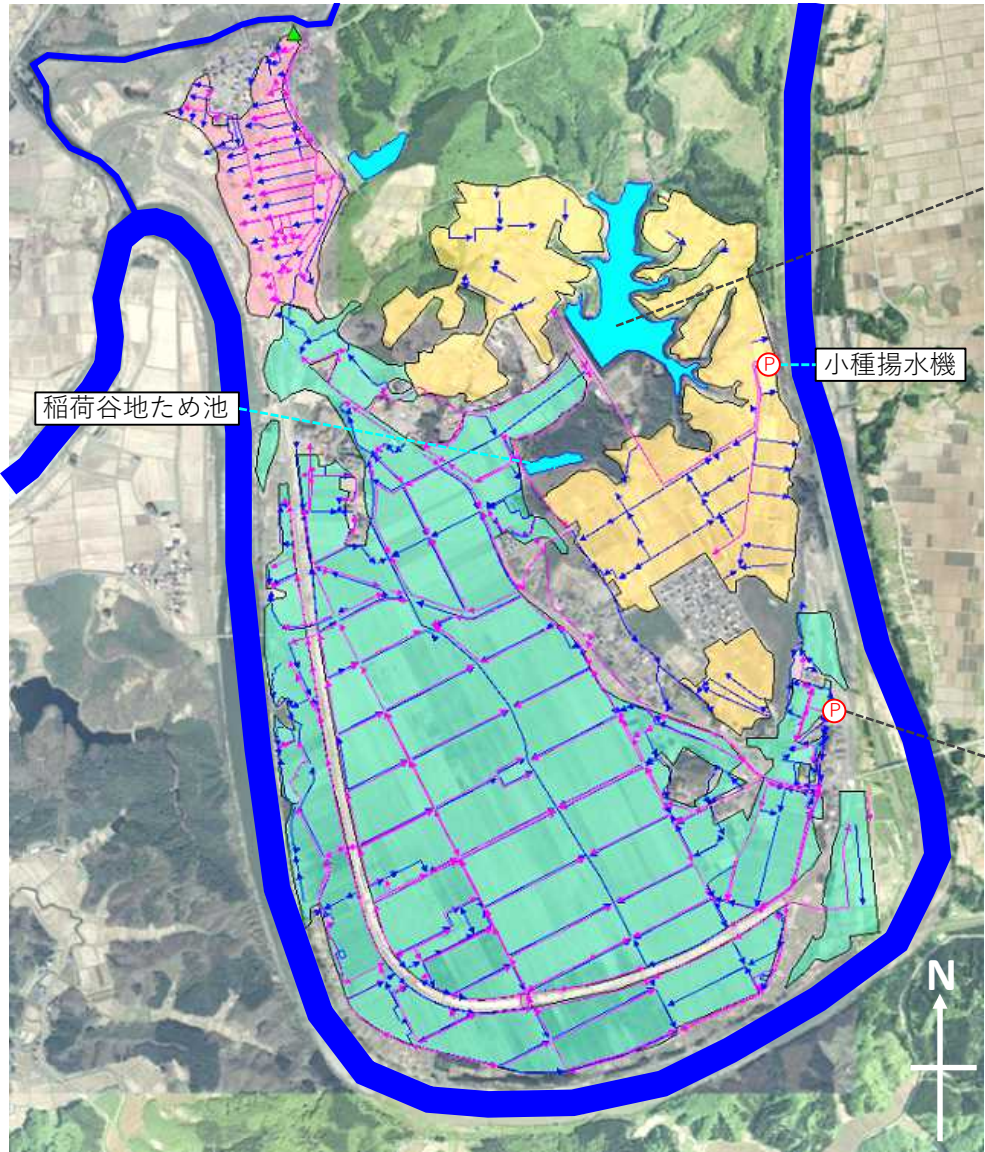
【白岩工区の用水系統】 白岩揚水機 + （売笈沢ため池 or 滝の沢ため池） による供給主導型システム

- 白岩揚水機は工区全体を受益としており、うち山側は滝の沢ため池、谷側は売笈沢（からおいざわ）ため池により補水を受ける。
- 白岩揚水機からの揚水以外は開水路であり、供給主導型の農業水利システムである。



農業水利システム 淀川地区②：川原・西ノ沢・馬場・逢田工区 揚水機場からの供給を主体とするシステム





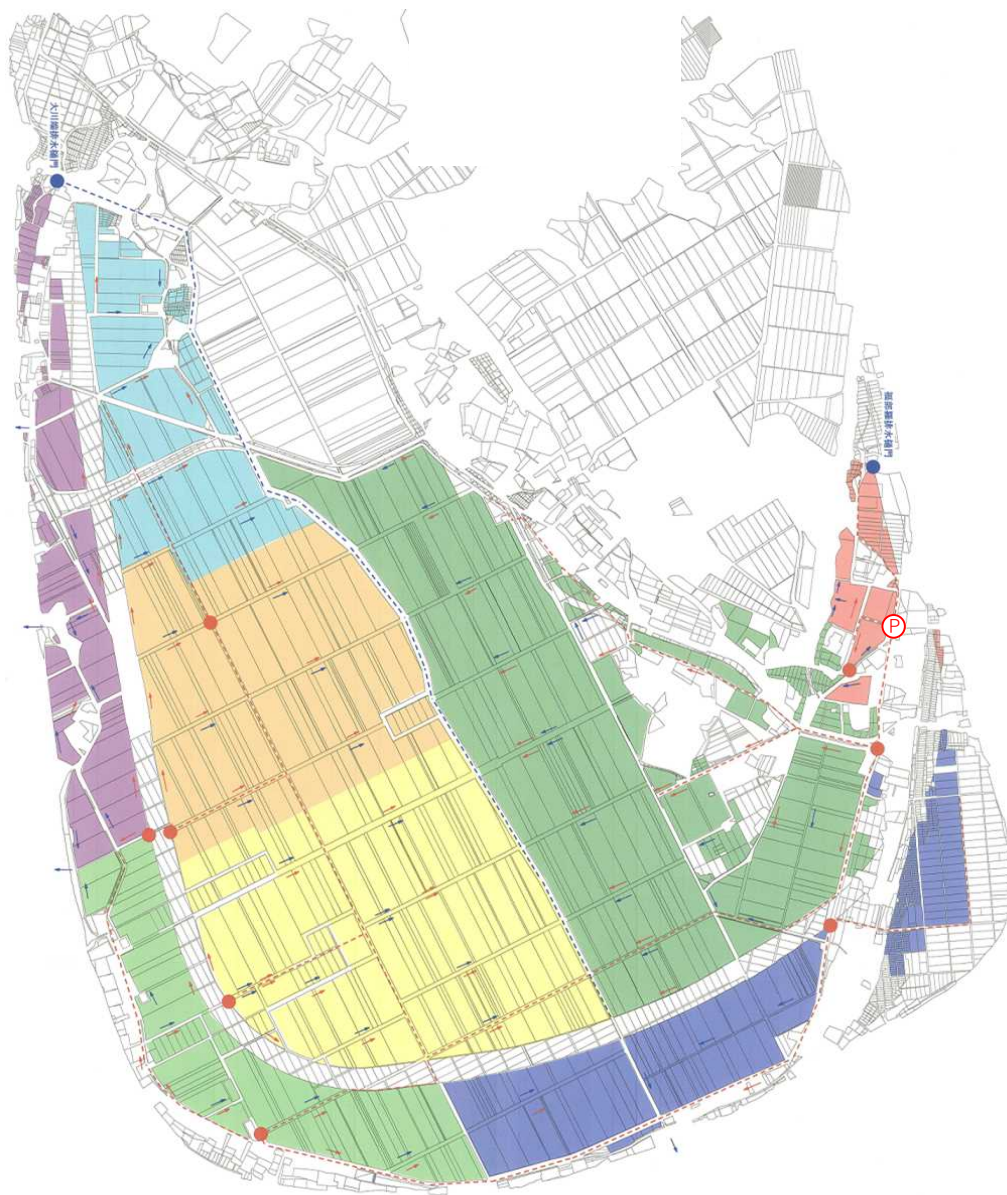
泉沢ため池



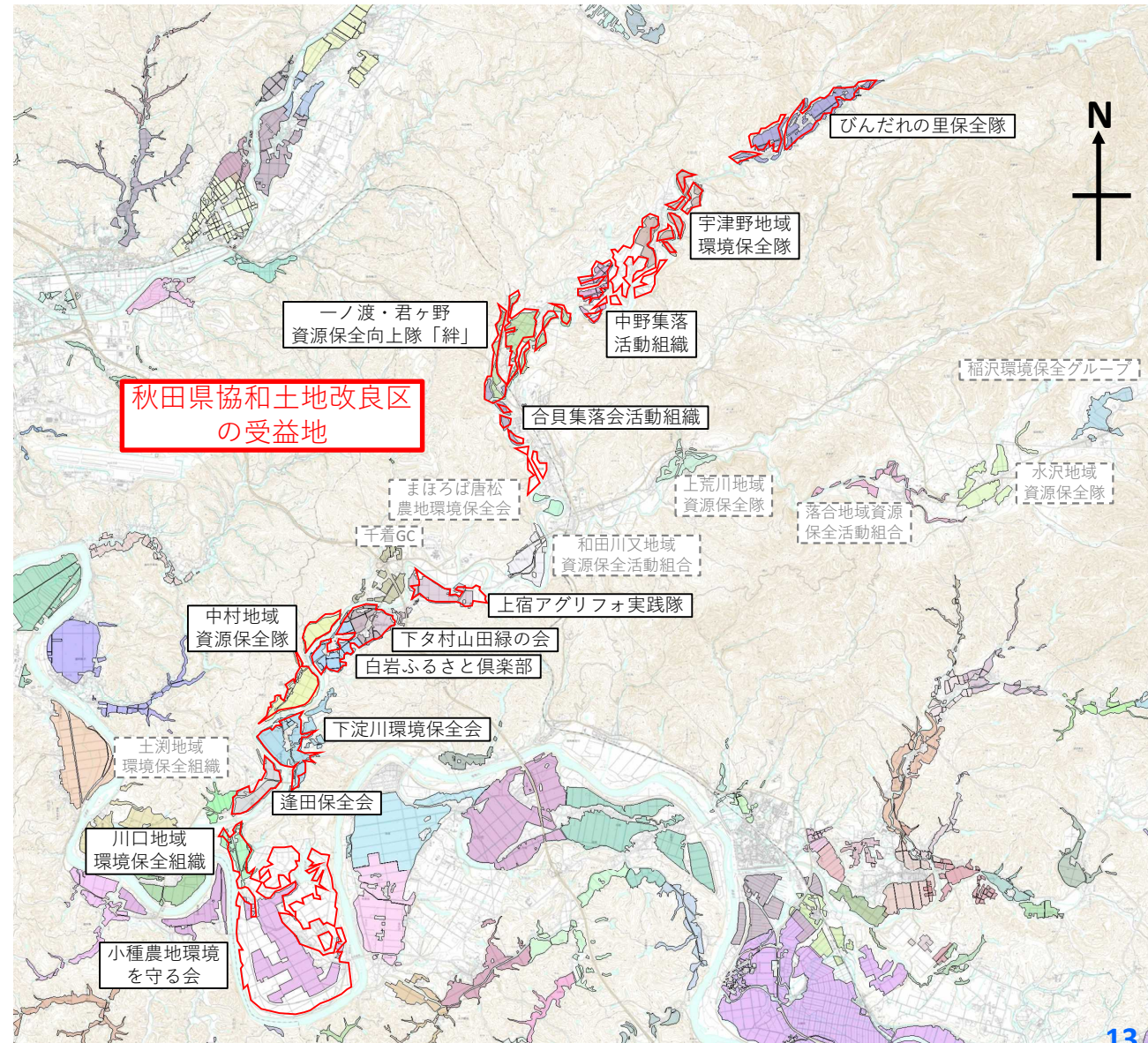
福部羅揚水機

【小種地区：福部羅揚水機の用水系統】 福部羅揚水機場から複数の吐出口に圧送

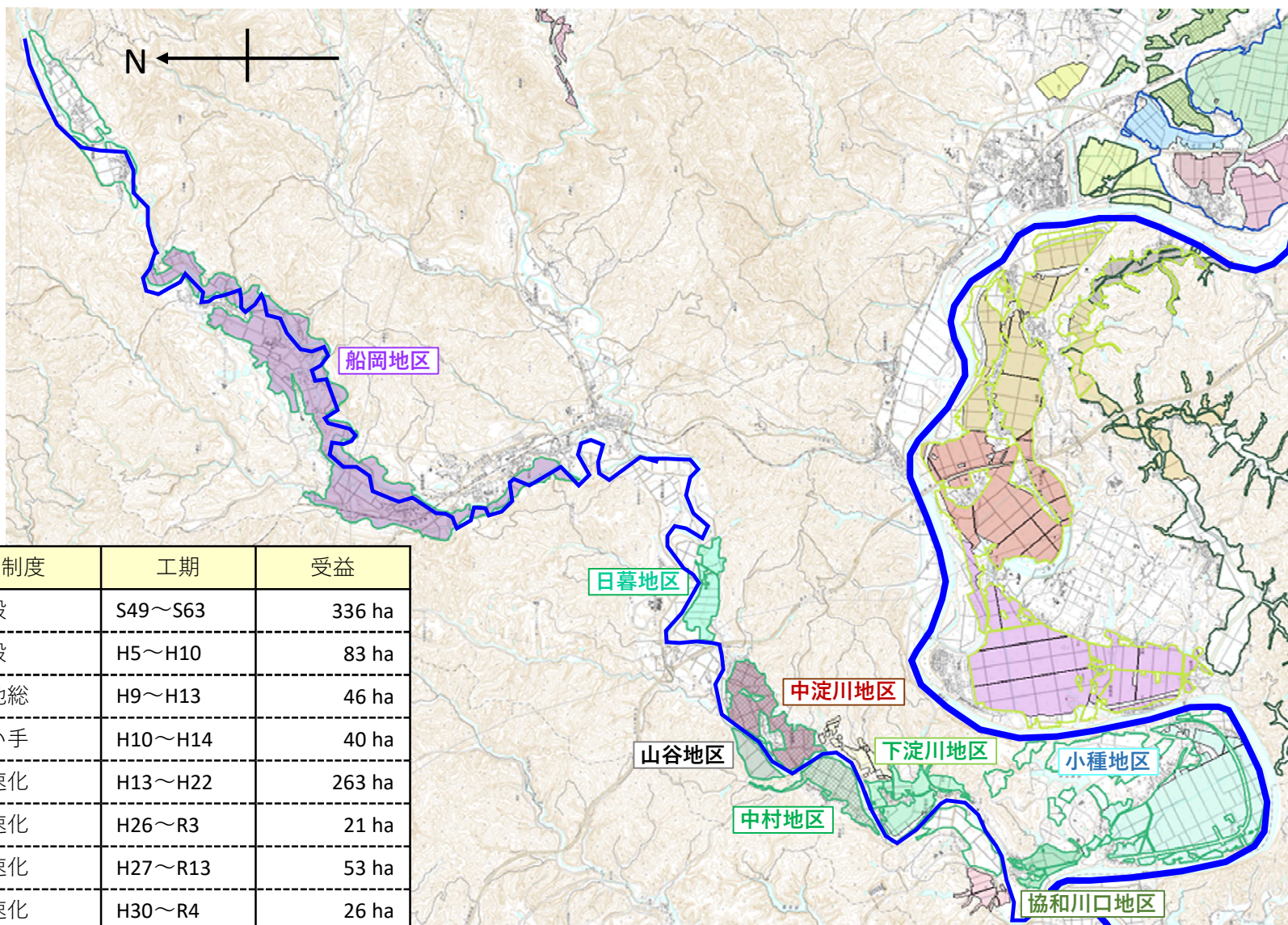
■ 福部羅揚水機から圧送される用水は、地区内の 8 箇所の吐出口より開水路に放流され、配水される。



- 管内に13組織が存在。土地改良区は、このうち4組織の構成員となっている。（事務受託はなし）
- 大半の組織が資源向上の共同活動までの取組を行っており、また半数程度が長寿命化の取組まで行っている。



- 平成17年度に完了した「芝野地区」以降、しばらくほ場整備が実施されてこなかった。
- 平成31年度以降にはほ場整備を加速的に実施。



地区名	制度	工期	受益
船岡	一般	S49～S63	336 ha
中淀川	一般	H5～H10	83 ha
中村	土地総	H9～H13	46 ha
日暮	担い手	H10～H14	40 ha
小種	加速化	H13～H22	263 ha
山谷	加速化	H26～R3	21 ha
下淀川	加速化	H27～R13	53 ha
協和川口	加速化	H30～R4	26 ha